

第66回日本社会学会

第66回日本社会学会大会は10月10日(日)、11日(月)の両日、東洋大学白山校舎で開催された。参加者は、非会員も含めて1,226人、一般報告61部会、245報告、それに3つのテーマ部会が開催された。

テーマ部会3つの内の1つは「超低出生率社会をめぐる」であり、学際的な以下のメンバーで開かれ、大変な盛会であった。

- 報告者 1) 河野 桐果 「女性の地位と出生率低下」
2) 島田 晴雄 「近代経済学モデルより分析」
3) 田間 泰子 「中絶の社会史、政府の人口政策と産児調節をめぐる公的言説の変化」
- 討論者 今田 高俊、大沢 真理
- 司会者 上野千鶴子、庄司 洋子

なお、これに先だつ10月9日(土)同東洋大学において、アジア社会研究会の第3回研究大会が開かれた。今回シンポジウムのテーマは「移動・開発・文化」であり、以下の報告があった。

- 報告者 1) 若林 敬子 「中国における開発・移動・文化」
2) 黒柳 晴夫 「人口流出と村落社会の変容——ジャワ農村の事例から——」
3) 松田 素二 「ターゲットワーカーの虚像と実像——東アフリカ社会の事例から」
- 討論者 高橋 明善
- 司会 北川 隆吉、柄沢 行雄

(若林敬子記)

経済統計学会第37回全国総会

経済統計学会第37回全国大会は、1993年11月6日(土)から7日(日)の2日間、岐阜経済大学(岐阜県大垣市)において開催された。報告は家計、産業、SNAなどの経済統計が中心であるが、人口に関連するものとしては「日中「雇用者表」の推計について」(趙晋平、立教大学)、「労働行政の業務統計に関する一考察」(岡部純一、岩手大学)、「日本の労働時間の推計」(福島利夫、大阪経済法科大学)、「ビクトリア朝統計改革とウィリアム・ファー——戸籍本署における活動を中心として」(広岡憲造、北海道大学)、「高齢者の世帯状態の将来推計」(廣嶋清志、人口問題研究所)があり、統計全般に関連するものとして「統計と情報」(杉森滉一、中央大学)、「情報化と統計——統計データベースとネットワークの進展について」(伊藤陽一、法政大学)などがあった。

(廣嶋清志記)

人文地理学会

1993年度の人文地理学会大会は1993年11月13日～15日、神戸商科大学(兵庫県神戸市西区)にて開催された。人口研究に関連しては以下のような発表があった。

- わが国における1985～1990年間の都市間人口移動パターン……………磯田 則彦(広島大学・院)
- わが国における医療サービス供給の地域格差……………神谷 浩夫(椋山女学園大学)
- わが国における年少人口減少と小学校の立地変容……………酒川 茂(広島女子大)
- ハワイにおける日本人の職業分布について
——1910年頃、ホノルルを中心に——……………飯田耕二郎(同志社女子中高校)
- ソルトレークにおける日系人社会の成立とその解体過程、および現状……………池田 碩(奈良大学)